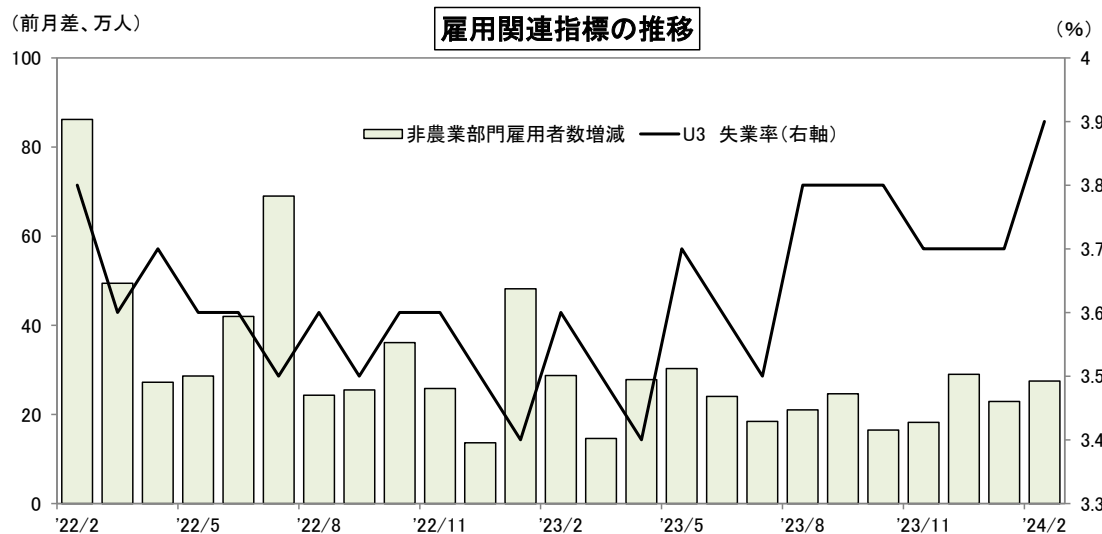


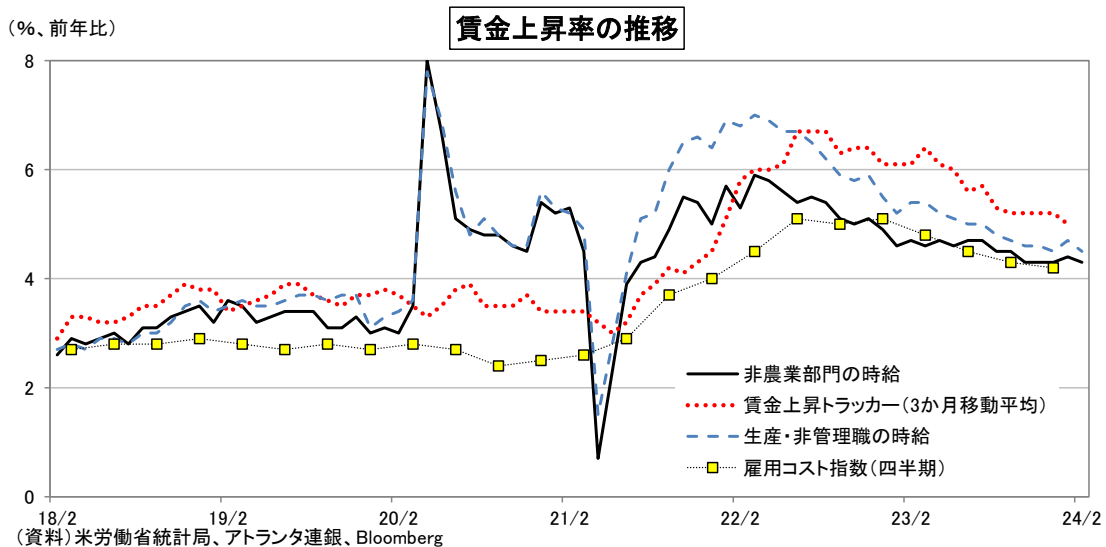
## (米国) 需給緩和が進む労働市場

2月の雇用統計を確認すると、非農業部門雇用者数は前月から27.5万人増(事業所調査)と速いペースでの雇用増加が維持された。失業率は0.2ポイント上昇し、約2年ぶりの水準となる3.9%となった。失業率の上昇は労働市場の需給緩和が進んでいる証拠と考えるとよいだろう。1月の非農業部門雇用者数が12.4万人と大幅に下方修正されたものの、足元3か月平均は26.5万人増と雇用拡大ペースは依然として速い。



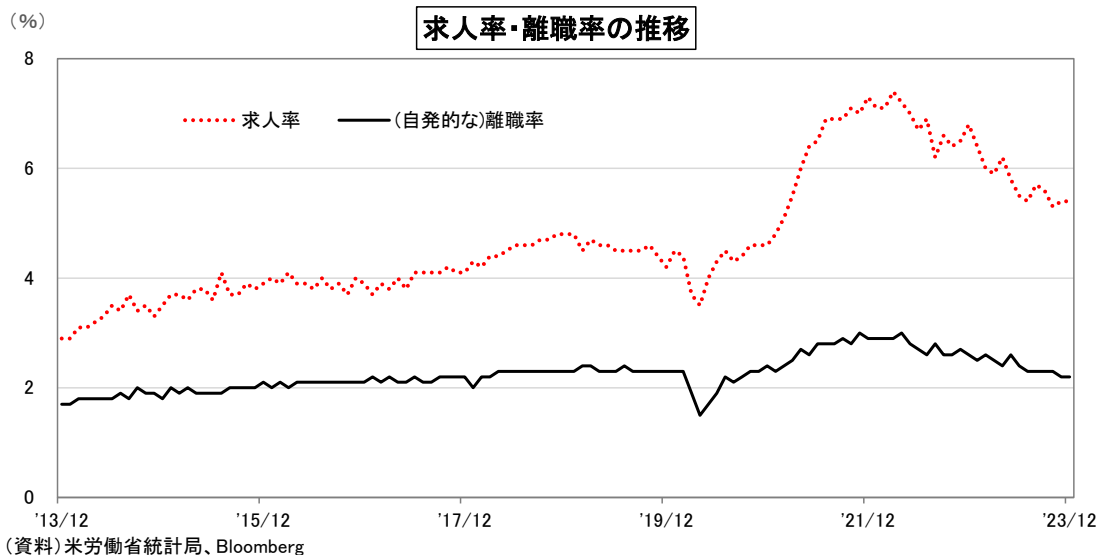
(資料)米労働省、米議会予算局、Bloombergより農中総研作成

2月の平均時給は前年比4.3%(前月比0.1%)、生産・非管理職の時給は同4.5%(同0.2%)の上昇といずれも1月から減速した。前月比でみれば、2月の賃金上昇率は抑制されている。

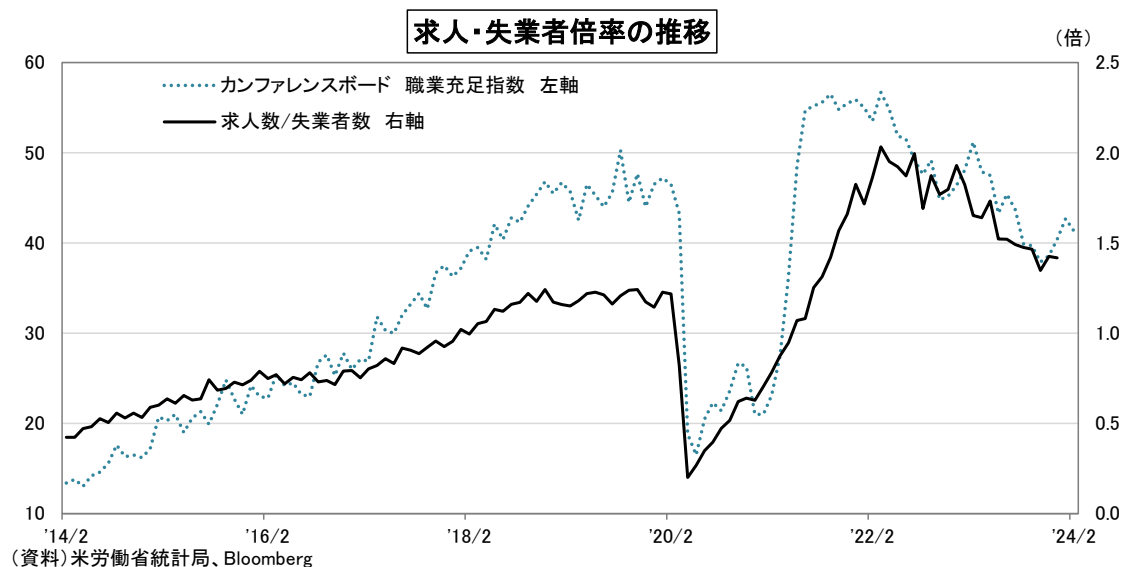


(資料)米労働省統計局、アトランタ連銀、Bloomberg

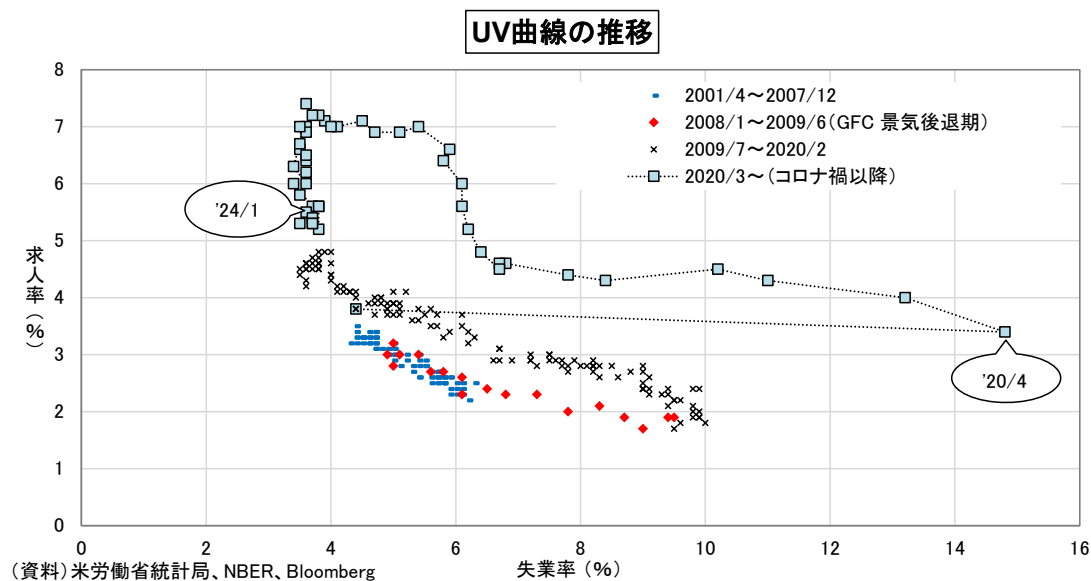
1月の求人労働異動調査によると、求人数は886万件と12月からわずかに減少した。また、求人率(=求人数÷(求人数+雇用者数))は変わらずの5.3%、自発的な離職率は0.1ポイント低下となる2.1%となった。低下トレンドが維持されていると判断できる。



求人数と失業者数の比率をみると、1月は職を選ばなければ1人の失業者に対して1.42倍の求人が確認され、低下トレンドが続いている。



足元のUV曲線の動きをみると、現段階ではUV曲線はシフトしておらず、失業率の大幅な上昇を避けつつ求人率が低下する動きが続いている。求人率の低下に対して、失業率が4%より少し低いところでほぼ固定された状態となっている。



1月の求人労働異動調査と2月の雇用統計は、労働市場の需給緩和を示す内容となった。もともと、雇用拡大ペースが速いことから、3月FOMC(19~20日)から利下げを開始できる状態にはなさそうだ。なお、筆者は引き続き6月FOMCでの利下げ開始を予想しており、FF金利先物市場では6~7月FOMCでの利下げが織り込まれている。FOMC参加者からの24年内利下げ発言が続くなか、3月FOMCで更新されるFRBの経済見通しへの注目度は非常に高いといえるだろう。